

## 「かかわり」の知を育む社会科の実践的検討 ー 討論活動を促進する指導方略の分析 ー

### A Study on Social Studies for Knowledge of “Relations” in Practice : Through an Analysis of the Teaching Strategy for Discussion in Social Studies Lessons

豊 畠 啓 司

Keiji TOYOSHIMA

社会科教育講座

(平成22年9月10日受理)

#### I. はじめに (問題の所在)

近年, 社会科教育の趨勢は, 「社会形成」や「市民社会科」などを鍵概念とし, 社会科の究極目標である市民的資質の育成により照射した「社会知」研究となっている<sup>1</sup>。この立場の社会科では, 大方「世界」を所与のものとは見なさず, その捉え手(学び手)としての個人またはコミュニティに相対的・関係的な開かれた社会観を構築しようとする。しかし, この立場の「研究」でさえ, 学び手に開かれた社会認識/価値観の形成を目指そうとする前進は見られるものの, それら研究集積は社会観を(問題構造として)複数提示する事前に予定された内容に終始しているといわざるを得ない。つまり, ①前提として把握させておきたい知識として議論の構図を示すまでで「あとは生徒の討論実践に俟つ…」及び②市民社会科論の大枠は示したものの「この学習の評価方途の開発は実践に俟つ…」二つの実践課題としての難問を抱える。「社会知「実践」の本丸として, そこから討論がはじまるのであるが, 以降どのような手だてをとるかについて「学的研究」からは不問に付されている。

本研究の目的は, 社会知「実践」として筆者が授業設計及び実践に携わった, 「かかわり」の知を育む社会科授業の実践的検討を通して, 討論学習を促進する社会科としての指導方略を明らかにすることである。

#### II. 「かかわり」の知を育む社会科の授業設計

##### 1. 単元名

『婚活しますか? 非婚ですか? それとも…? ~最も身近な社会のつくりかた「結婚」にどうかかわるかが問題だ!~』

…「私たちと現代社会」(公民的分野)

##### 2. 授業設計・実践の意図

「市民社会科」が社会形成を目的とするのであれば, 「社会」つまり人と人との関係及び構成要素「個人」を生み出す原初的な文化・制度として「結婚/家族」を取り上げることは必然であろう。「結婚/家族」は全ての社会の基礎的機能・単位ともいえよう。従前, 我が国ではこの最も小さくかつ身近な社会が成立するきっかけとして「結婚」が自明視されてきたが, 昨今, 未婚化, 晩婚化など結婚難が少子化の主因として問題視されている。我が国に限らず, 同様の難局を抱えるフランスでは, 従来の結婚とは異なる新たな共同体制度を採るに至った。「社会」の最小単位, これからの「結婚/家族」の在り方は誰しもが直面する問題であり, 社会の形成に参画する資質を育む社会科が義務教育として避けて通れない必須教材と考える。本授業は, 新学習指導要領の内容(1)「私たちと現代社会」の「ア 私たちが生きる現代社会と文化」を意図して授業設計にあたった。

##### 3. 単元目標

○将来的な「結婚/家族」制度の望ましい在り方

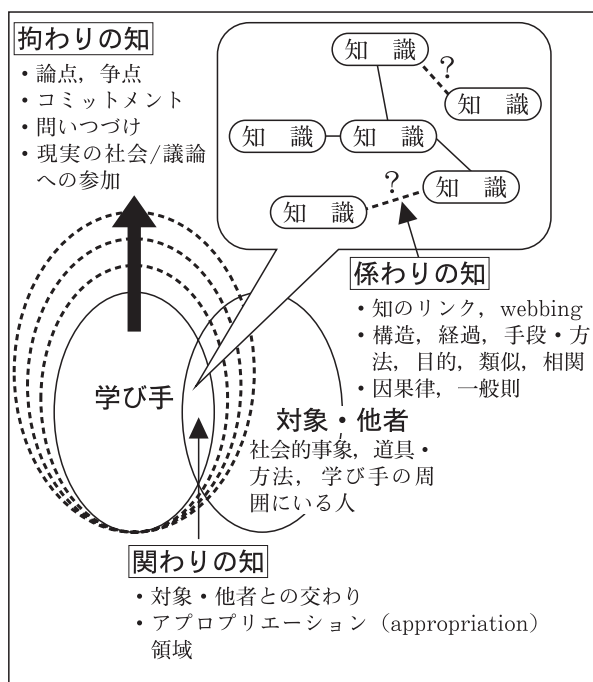


図1. 社会科で育む「かかわり」の知（豊島作図）

について、国内外の状況を意欲的に調べ、議論しようとする。

- 「私の幸福」としての理念的とらえのみにならず、「社会存続」としての装置的とらえの側にも着目しつつ、制度としての「婚姻」にいかにかかわるか考え、その維持や更新について公正に判断することができる。
- 「結婚／家族」制度の望ましい在り方について、既存制度フル活用か／新制度改変かについて、他のメンバーの主張を踏まえ、妥協、調整するための議論に参加する。
- 「結婚／家族」の意義について、理念的側面、制度的側面、機能的側面等から多面的に説明することができる。

#### 4. 指導計画

##### (1) 授業理論の仮説…「三つの『かかわり』の知」

市民的資質として育むべき社会形成力を、対話的交渉による関係的な意味の構築・共有、つまり、議論により「社会をつくる」とことと捉え、この社会科を体現するための授業理論として、三つの「かかわり」の知からなる授業構成を提案する（図1）。一つめは「係わり」の知であり、個々の事象についての知識に関係とその意味を見出す、いわば‘つなげる’知のことである。二つめは「関わり」の知であり、学び手が他者との知的格闘を経て獲得に至る、より納得する知（我有化）、他者も認める知（共有化）、いわば‘交わる’知のことである。三つ目は「拘わり」の知であり、学びをあくまで「社会の自己化<sup>2</sup>」にいたる過程と捉え、そのような捉え方でよいか絶えず問いつづけるコミットメントとしての、いわば‘こだわる’知のことである<sup>3</sup>。この対話的交渉を必然とする授業構成により前述の実践課題に対処すべく、開発授業を以下の具体的な方途とともに提案する。

##### (2) 討論学習の実践的指導と評価

まずは、先述「かかわり」の知による授業設計が単元全体レベルで、市民社会科が孕む実践課題①を乗り越え、よりよく議論を促進する指導方途であると考え。加えて、単元の各段階レベルの指導方途として、課題意識（1次的問い）をより深化、議論化させる転換エポックとなる2次的問い<sup>4</sup>を設定し、議論の内実が討論や交渉<sup>5</sup>として促進されるよう問い方を配慮した（表1）。

さらに、学習活動レベルの方途として、第三段階において、集団での事例面接を施した。これは「指導と評価の一体化」より実践課題①（議論）への必然的な対話促進力を持つとともに、実践課

表1. 「かかわり」の知の機能と問い

段階 / 構成すべき知	機 能	基本の問い方：1次的	【事例】1次的問い(1)→2次的問い(2)
一 / 係わり： connection/relation	知の <u>顕在化</u> 社会を ‘つなげる’ 知	(これまでの社会は) ～は何か／どのような ／なぜか？	(1)結婚とは何か？どうすることをいうか？ (2)結婚は誰のためにするのか？ …（転換／深化）
二 / 関わり： argument/negotiatoin	知の <u>社会化</u> 社会として ‘交わる’ 知	(われわれは) ～いかにとらえるか？	(1)結婚は時代遅れのダメな制度か？ (2)結婚しないもありか？…（転換／議論化）
三 / 拘わり： commitment/prospect	知の <u>価値化</u> 社会に ‘こだわる’ 知	(これからの社会を) ～どうつくる／つくり かえるべきか？	(1)最小身近な社会、これからの結婚・家族 はどうあるべきか？ (2)ボックス法（仏）に倣うか、婚活するか？ …（転換／議論化）

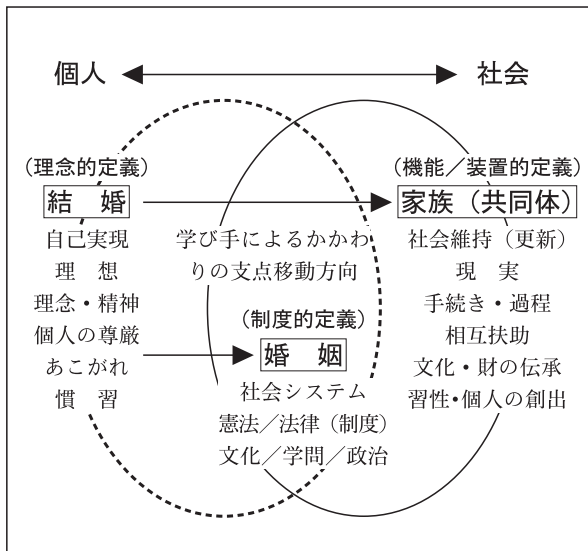


図2. 思考支援ツールの想定例…ベン図の場合  
(豊島作図)

題②を乗り越えるための評価方途である。教師は、数人による対話セッションを進行し、評価指針(rubric)<sup>6</sup>をもとに対話的交渉そのものの評価にあたる。本提案授業では、本物(現実の社会)の議論への継続・参加<sup>7</sup>、ベン図(図2)など思考支援ツールによる(社会秩序・制度の様態やそれらが再構築されるプロセス)の可視化<sup>8</sup>を試みた。本小論では紙幅上、実践課題①(討論学習を促進する指導方略)のみ検討する。

(3) 具体的な単元計画(表3. pp.7-14参照)

### Ⅲ.「かかわり」の知を育む社会科の授業実践の分析

#### 1. 授業実践及びデータ収集の方法

本実践は本学中等研の大学・三附属中学校共同研究社会科の一環として、モデル授業の予備実践であり、評価指標作成や授業計画改善のためのデータ収集を眼目に実践機会を得た。そのため、本来第3学年公民的分野内容の本単元を、敢えて未履修状況にある本学附属小倉中学校第2学年(3学級:120名/2009年11月24日)で実践した。

その際、第一、二段階について本来2時間の計画を1時間に凝縮して指導した。その後、第三段階の討論学習については、3グループ(各4名構成)を抽出し、各グループとも約10分間、VTRで音声・動画を記録した。これをもとに、発話プロトコルデータを抽出した。以下、1グループの事例(表4. pp.14-16参照)について検討する。

#### 2. 授業実践の分析

##### (1) 分析の枠組

授業実践に分析にあたっては、①社会科授業原理としての指導方略、②討論学習を促進する指導方略の2側面から検討する。

①社会科授業原理としての指導方略…視座/視点/視野

発表者はこれまでに、社会知の社会科授業を「かかわり」の知(係わり/関わり/拘わり)から捉え、それらを育む社会科の指導方略として以下の枠組を提案してきた(表2)<sup>9</sup>。特に、実践の討論学習にあたる第三段階「拘わり」の知については、西條氏の主張<sup>10</sup>をもとに関心相関化として以下の6つを具体的機能として提示する。

- |                  |               |
|------------------|---------------|
| ①自他の関心を対象化       | ④世界観の相互承認     |
| ②目的の相互了解・関心の相互構成 | ⑤信念対立解消       |
| ③方法評価            | ⑥「方法の自己目的化」回避 |

関心相関化として学び手の社会言説援助に当たる際、視座は社会事象の外側か内側かを明確化することが必要となるが、それら視座が複数あることに関心を持たせることが肝要である。また、鍵人物の行為(結果)、拠って立つ学問成果や数字が説明しうる複数事象(基本的には因果の2事象)の関係及び学び手のかかわりを通した気付き等を視点とするが、妥協・調整・選択するうえで多様である。これら妥協・調整・選択すべき複数事象の関係を全体的に包含する範囲が視野となる。例えば、合意形成を目指す社会科<sup>11</sup>の授業の場合、前述したツール・モデルの留保条件(rebuttal)を明確化することは、視野を限定/確定することからのアプローチといえる。

これにより、授業実践での討論学習における社会科授業原理としての指導方略について検討する。

表2. 「かかわり」の知を育む社会科の指導方略

社会言説をつくる事象操作	係わりの知	関わりの知	拘わりの知
	対象化	相対化 (／具象化)	関心相関化
視座 (standpoint ／method)	事象外 (統一主義) 意識化／可視化 構造化／客観化	事象内外に多様 (多元論者) 質的方法／ 解釈学的分析 言説至上主義／文脈的	事象内外に多様 (多元的統一論者) 関心相関的方法選択
視点 (focus)	単一の関係	複数の関係	単一又は複数の関係 (関心相関的視点)
視野 (context)	普遍法則の発見	ローカルな知識の創造	個々の多様な現実を認めつつ統一的な知の追求

## ②討論学習を促進する指導方略…リヴォイシング

討論学習においては、教師の問いと生徒の応答が一斉授業形態のように頻繁に行われたい。よって、生徒の発言をフォローし討論を調整、促進する処遇を検討する。教師が学び手の発言を引用しながら、授業における課題解決へと方向づけ、より深い概念解釈を行う対話へ誘導する「リヴォイシング (revoicing: 再声化)」(O'Connor and Michaels, 1996) として注目される教師処遇である。リヴォイシングとは「議論の中で他の参加者によって行われる、口頭もしくは書き言葉での、ある児童の発言の、ある種の再発話」(O'Connor and Michaels, 1996) であり、O'Connor and Michaels (1996) は、その機能として、1) 話し合いの組織化、2) 提携・対立など立場の位置付け、3) 日常知と科学知の取り次ぎ、4) 聴衆が自身を関係づける機会付与、を指摘する<sup>12</sup>。これらより、討論中の教師によるリヴォイシングを捉え、①の社会科授業原理と併せて討論学習を促進する指導方略を検討する。

## (2) 集団事例面接における対話セッション分析

ここでは、1グループの事例(表4. pp.14-16参照)における教師のリヴォイシングに沿い、その指導方略の意味・意義について検討する。

まずターン1、「これからの結婚・家族」について主題を確定することで、討論開始のきっかけをつくった(ターン1)。A男によるパックス導入の意見に対して、教師は「少子化に役立つ」をリヴォイスした(ターン3)。合計特殊出生率の変化を根拠とするA男の発言の客観性を強調し、

言説を対象化している。続いてB男「子どもが悲しむ…よくない」(ターン4)発話に、「誰のため?…親のためだけ?」(ターン5)をリヴォイスし、親にとってよいことが必ずしも子どもにとってよいことではないことに気づかせる、つまり、子どもから親を捉え視座を多元化することによりA男の少子化解決の言説を相対化した。さらに、C女「(パックスは…子どもは)肩身が狭い…(でも現状)結婚率が低下…何らかの対策が必要」(ターン8)に対して、「しょうがない?…そのような方法をとらないと」(ターン9)目的の相互了解を求めるリヴォイスをする。これに反対するD女「パックス導入は反対…高齢者を支える負担が減る…わかるが、(子どもが)生まれてくる(ことの)…意味…質が…軽い…(少子化)対策は必要であるが」(ターン10)に、「生まれてくる意味…深い…」(ターン11)をリヴォイスする。世界観の相互承認を意識付けしたと解される。C女「パックスは…親がどうしようと子どもはどうすることもできない…生まれてくる子どもを考えた制度に…」(ターン13)に対して、「親の個人の権利…に偏りすぎ…?」(ターン14)をリヴォイス、方法の自己目的化の回避に仕向ける。「パックス導入した方がいい…いたよね…納得?」(ターン16)により、提携か対立か、立場の明確化を図る。C女「(パックスには消極的)でも…少子化(が進行)…」に対して、「(社会学者談: 若者は将来的に)4人に1人(結婚しない)」(ターン21)リヴォイスで未婚の現状(日常知)を科学知として客観化する。これに誘発された、D女「(江戸時代の政略結婚、ちょっと前までのお見合い結婚など昔)出会い(の機会)はあった…が、現在(社会学者の説明では、自由恋愛になった分)出会いがなくなった…婚活など強いられることに…でも(現在)結婚に対しての意識の低下(負の捉え)が起こり、高齢化、少子化、国力低下進む…悪循環…自分(個人)と、これからの日本(社会の両方から)結婚を…考える必要」(ターン22)事象内外に多様な多元的統一論としての視野である発話を導いた。これに対しては「少子化担当PT座長みたい(賞賛)…」(ターン23), 「広い立場からの意見(だったが、どうか?)」(ターン25)をリヴォイスし、目的の相互了解・関心の相互構成をねらう。A男「まいりました」(ターン26)に、「(まいりましたじゃなくて)…個人の愛情、感情…その立場からはない?」(ターン27)再び個人の要素を視点に発話を誘発し、C女「結婚はよいこと(自分でもそう思いつつも…親、子いろいろいても)



つまり（社会：国は）結婚率上げたらいいということでしょ？」（ターン28）、D女「フランスは…（パックス）で国の出生率を上げるための手段…人間としての生き方…無い…感心できない」（ターン29）を導く。これに「今の日本の結婚…（真剣に）考えたうえで？…実質パックス化では？」（ターン30）、「離婚率上昇（アメリカのように…）離婚しやすいような法律に変えれば？」（ターン32）をリヴォイスし、再度、日本の結婚現実を対象化しつつ、方法の自己目的化の回避をねらう。これにD女「離婚禁止の法律無い…何度相手を変えても自由、うわべだけの判断も…しかし、（1回しかないなど、結婚に対する思いを）親から教わることもうすれて…結婚に対する考えを改め直す機会が（個人的に）欲しい」を導く。社会の制度と個人の感情の止揚に困難さがあることに気づかせる。ここで討論の進展が見られず、「おひとりさまは？」（ターン34）話題転換する。C女「個人の自由…強制には誰も従わない…でも人生経験（としてどうか）？」（ターン37）、D女「結婚は自由…が、生まれてきた意味を考えるとこれから（社会）のために何が…自分の代で終わらせず…後生にも…大切」（ターン39）を導く。A男「非婚をつくらない政策を」（ターン40）に対して、「1人でいると高い税金？…バッド税化？」（ターン41、43）をリヴォイスし、A男「それも悪くない」（ターン44）、税制として授業で学んだ科学知に繋げる。最後に「これからの家族、結婚についていい足りないことは？」（ターン45）を問い、D女「国として少子化（対策は）…職場での出会う機会、保育施設、相談施設の充実など、もっと（パックスや直接給付のほかに）手段があるのではないか」（ターン46）で討論を終える。

#### IV. 小 活

本研究における「かかわり」の知を目指す授業実践分析の考察として、社会科での討論活動を促進する指導方略の成果を三点述べる。

まず1点目は、「機会」についてである。討論学習を促進するうえで、さらに「かかわり」の知育成の軌道から議論の逸脱を制御するうえで、生徒の発話直後の機会を捉えたリヴォイス（再声化）が有効である。

2点目は、「方略」についてである。社会科本質的な学習原理が意図されたリヴォイスが有効である。本研究では「かかわり」の知として「関心相関化」を基盤に「視点／視座／視野」か

ら社会事象を捉える枠組を試した。

現象的な手立ては先述のリヴォイスであるが、生徒発話の単なるオウム返しでは、社会科の、「かかわり」の知を目指す討論学習には至らない。

3点目は、「評価」についてである。討論学習での指導と評価の一体化としてリヴォイス機会を捉えた教師介入が有効である。多くの場合、討論学習は例えばディベートのような厳守すべき討論形態や、よく指導された学級の支持的風土に依存した、教師が介入しない指導こそが是とされる傾向にある。この立場では、事前、事後にしっかり指導、評価すればよいということであろう。しかし、固有の目標・内容を有する社会科教科学習において、このやり方は一種の“賭け”ともなりかねない。この手の教師が介入しない討論学習の成功を祈るより、討論中に教師が恣意性に配慮しつつ社会科教科教育に積極的な意味での介入は、むしろ「指導と評価の一体化」として是と捉えられるべきである。

課題として以下の2点が残る。

課題の1点目は、社会科として「社会知」の学習原理を共有する必要がある。本研究では筆者が提案する「かかわり」の知を充てて検証を試みた。現状「社会知」は、社会科学における認識論、存在論、社会形成論、法哲学、政策決定論などにより多様かつ広範に語られる。社会科教育で育むべき「社会知」の射程や方法が社会科の側で共有されていなければ、分析方法のよさのみに「這い回る」無目的な実践研究に墮することになる。

課題の2点目は、本研究での「かかわり」の知をはじめ、社会形成社会科、市民社会科など「社会知」を目指す大方の社会科は、将来に向けてよりよい社会の形成を目指す。従前の習得した知識の到達を重視する達成目標のみに依拠するのではなく、社会の向上としての方向目標にかかわる、討論学習でのより具体的な評価指標の開発と、実践研究での検証が肝要である。

※本小論は、拙稿、単元名『婚活しますか？ 非婚ですか？ それとも…？ ～最も身近な社会のつくりかた「結婚」にどうかかわるかが問題だ！～』…「私たちと現代社会」（公民的分野）、平成21年度本学『大学教員による附属学校・園での授業実践研究』、pp.26-33、を加筆、再編成したものである。

## [注]

<sup>1</sup> 池野範男「批判主義の社会科」全国社会科教育学会『社会科教育』第50号, 1999, pp. 61-70。

服部一秀「社会形成科としての社会科の学力像」全国社会科教育学会『社会科研究』第56号, 2002, pp. 11-20。

溝口和宏「開かれた価値観形成をめざす社会科教育ー「意思決定」主義社会科の継承と革新ー」全国社会科教育学会『社会科研究』第56号, 2002, pp. 31-40。

吉村功太郎「合意形成能力の育成をめざす社会科授業」全国社会科教育学会『社会科研究』第45号, 1996, pp. 41-50。

水山光春「合意形成をめざす中学校社会科授業ートウールミンモデルの『留保条件』を活用してー」全国社会科教育学会『社会科研究』第47号, 1997, pp. 51-60。

その他, 拙稿「構成主義的アプローチによる社会科意思決定型学習指導過程」全国社会科教育学会『社会科研究』第51号, 1999, pp. 41-50。

拙稿「意思決定の過程を内省し, 認識の社会化をはかる社会科授業」社会系教科教育学会『社会系教科教育研究』第13号, 2001, pp. 9-19等。

<sup>2</sup> 今田高俊『モダンの脱構築ー産業社会のゆくえ』中公新書, 1987年, pp. 39-42。

<sup>3</sup> 拙稿「社会科蘇生の脱構築ー「かかわり」の知をめざす社会科授業設計ー」全国社会科教育学会『社会科研究』第67号, 2007年, pp. 1-10。

<sup>4</sup> 杉万氏は人間科学の現場を, 論理実証主義的なスタンスの共同的実践である一次モードと, その進行に伴い実践の根底にあった「気づかざる前提」に気づく二次モードの連続的交替運動を経て発展的更新にいたると捉える。一次的問い, 二次的問いは, 社会構成主義から, この両モードに対応し共同的実践を促すことを目した。杉万俊夫「社会構成主義と心理学ー「内なる心」の観念を超えてー」下山晴彦編『心理学論の新しいかたち』誠信書房, 2005年, pp. 66-84。

<sup>5</sup> カール・シュミット／稲葉素之訳『現代議会主義の精神史的地位』みすず書房, 1972年。議論デモクラシー(熟慮審議デモクラシー, deliberative democracy: ここにいう「議論」は, 他人との議論すなわち審議のほかに, 自分の頭の中での議論すなわち熟慮をふくむ)の中で, シュミットは「討論」と「交渉」を区別している。

<sup>6</sup> 「真正の評価」概念でいわれるパフォーマンス課題を見取る質的な採点指針。成功の度合いを示す数値的な尺度(scale)と, それぞれの尺度に見られる認識や行為の特徴を示した記述語(descriptor)から成る。

量的な「基準」では, 思考力・判断力など高次の目標を質的に把握することが困難なため, 質的な「基準」の方法論として登場した。田中耕治『教育評価』岩波書店, 2008年, pp. 135-167。石井英真「ルーブリック」田中耕治編『よくわかる教育評価』ミネルヴァ書房, 2005年, pp. 48-49。

<sup>7</sup> 学び手間の対話による「小さな社会」形成のみならず, 現実社会の議論の周辺に参加する対話としての「大きな／本物の社会」形成に繋ぐ意図からである。

<sup>8</sup> 学び手間相互理解による議論促進及び教師の評価材料, 両視点から思考の可視化を意図した。

<sup>9</sup> 拙稿「社会科教育における指導方法理論化ー社会知の授業を成立させる指導方法／技術ー」福岡教育大学『福岡教育大学紀要』第58号, 第2分冊, 2009年, pp. 23-32。

<sup>10</sup> 西條剛央『構造構成主義とは何かー次世代人間科学の原理』, 2005年, 北大路書房, pp. 52-53。

たとえば, 死にそうなほど喉が渇いていたら「水たまり」も「飲料水」という存在(価値)として立ち現れることになる。

「自分(他人:研究者)の関心を対象化することによって, 自分が感じ取っている価値や意味を相対的にとらえることを可能にする認識装置なのです。関心相関性は現象を構造化する際の方法論上の基軸にもなります。それが「関心相関的選択」という方法装置です。認識論や方法論といったものをすべて関心と相関的に選んでいくための視点です。」

<sup>11</sup> 水山光春「合意形成をめざす中学校社会科授業ートウールミンモデルの『留保条件』を活用してー」全国社会科教育学会『社会科研究』第47号, 1997年, pp. 51-60。

<sup>12</sup> O'Connor, M. C., & Michaels, S. (1996). Shifting participant frameworks: orchestrating thinking practices in group discussion. In D. Hicks (Ed.), *Discourse, learning, and schooling* (pp.63-103). Cambridge, New York: Cambridge University Press.

表 3. 単元指導計画

第一段階「係わりの知」（知の顕在化）

○ 1 時限目…結婚の成立手続、様態・機能の変化、今日的課題等について把握する。

展 開		教師の主な発問・指示・資料	予想される解答（習得・吟味・判断させたい知識）
第一段階 係わりの知	導 入	<p>○書籍やテレビでさかんに「婚活」がいわれている。「婚活」とは何か。</p> <p>【資料 1】：『婚活時代』<sup>1</sup></p> <p>○なぜ、今日、「婚活」の必要性が喧伝されるのだろう。</p> <p>○結婚が難しいとはどういう状況だろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい結婚を目指して、合コンや見合い、自分磨きなど、積極的に行動する結婚活動の略だ。</li> <li>・『婚活時代』の書籍帯にも「今の若者の 4 人に 1 人は結婚できない!？」とあるように、将来的に結婚が難しいからだろう。</li> <li>・いわゆる適齢期であるが、結婚したくてもできない…未婚</li> <li>・適齢期を過ぎて結婚がおくれている…晩婚</li> <li>・そもそも結婚しない…非婚</li> </ul> <p>これらが増えているためではないか。</p>
	展 開	<p>【 1 次的な問い】（めあて） <b>結婚って何ですか？ どうすることをいうのですか？</b></p> <p>○今日にまで「結婚」はどのような変化があったか。</p> <p>【資料 2】：図「昔と今ではこんなに違う結婚の現実」<sup>2</sup></p> <p>○現在は中学生である君たちにとって、「結婚」とは何だろう。</p> <p>【資料 3】：グラフ「結婚年次別にみた、恋愛結婚・見合い結婚構成の推移」<sup>3</sup></p> <p>○そもそも「結婚」とは正式な制度を指し示す用語か。</p> <p>【資料 4】：憲法・民法・戸籍法等の関連条文<sup>4</sup> 【資料 5】：国語辞典（広辞苑<sup>5</sup> 等）</p> <p>○結婚とは、どうすることをいうのだろう。</p> <p>【資料 4】：憲法・民法・戸籍法等の関連条文</p> <p>○同時に結婚とは、どうしてはいけないことだろう。</p> <p>【資料 4】：憲法・民法・戸籍法等の関連条文</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸時代まで…親がとり決め「いいなづけ」自分の父と似た職業。</li> <li>・高度経済成長期まで…見合い・職場婚が多数、出会いから結婚まですぐ。</li> <li>・バブル期まで…見通しがある分結婚しやすい、終身雇用維持。</li> <li>・バブル崩壊以降（現在）…結婚の嗜好品化、将来不安男性増、生活多様化。</li> <li>・自分が「好意」を持つ「憧れ」の異性と幸福な共同生活を送ることだ。</li> <li>・戦前の旧憲法では戸主を統率者とする「家」が重視された法体系であったため、結婚は「家」やより強い権力に無理矢理強制される側面もあった。しかし、今日の現行憲法では、何より「個人」が大切にされなければならない法体系となったので、結婚はより「個人」の自由意思が強く反映されるものである。 …個人の尊重、幸福追求（憲13条）、両性の合意（憲24条）</li> <li>・よって、「個人」の自由意思が強く反映されるためには、互いが好意を抱く異性間での恋愛を経て結婚することが幸福になる秘訣である。事実、1965年以降、恋愛結婚が見合い結婚を逆転して増えている。</li> <li>・我が国の憲法や民法などに規定されている法律用語は「結婚」ではなく「婚姻」である。（憲24条、民731～791条など）</li> <li>・「結婚」の辞書的定義は「男女が夫婦になること」が一般的である。詳しくは「一对の男女の継続的な性的結合を基礎とした社会的経済的結合で、その間に生れた子供が嫡出子として認められる関係。民法上は、戸籍法に従って届け出た場合に成立する」とされる。</li> <li>・「結婚」は概して、男女が結婚式を挙げる（夫婦になる瞬間）だけでなく、夫婦となってからの二人の関係性、その関係で継続的に過ごす年月なども含めて指す日常的、慣習的に使用される語句である。</li> <li>・[協力扶助義務] 苦しいときもともに助け合って生活すること。 …両性の本質的平等（憲24条）</li> <li>・[養育義務] さらに、子どもをもうけ家族を形成すること。 …血族、嫡出子（民725条、民772条①など）</li> <li>・[財産関係] 一緒に住み収入及び消費生活を共有すること。 …同居、夫婦財産制（民752、755条など）</li> <li>・[婚姻適齢] 男は、18歳に、女は、16歳にならないと、婚姻をすることができない。（民731条）</li> <li>・[重婚禁止] 重ねて別の異性と結婚することはできない。（民732条）</li> </ul>

まとめ	／		<ul style="list-style-type: none"> <li>・[近親婚の禁止] 親子，兄弟姉妹，おじ・おばの間では婚姻することができない。(民734条)</li> <li>・[再婚禁止期間] 「女は，前婚の解消又は取消しの日から6箇月を経過した後でなければ，再婚をすることができない。」(民733条)</li> <li>・[未成年婚の許可] 未成年の子が婚姻をするには，父母（誰か一人）の同意を得なければならない。(民737条)</li> </ul>
		<p style="text-align: center;"><b>【2 次的な問い】（転換／深化） 結婚は誰のためにするのか？</b></p> <p>○結婚は誰のためにするのか。何のためにするのか。</p> <p>○結婚する「個人」の「幸福」だけがかねえばよいのか。子どものこと，将来の社会の在り方を考えなくてよいのか。</p> <p>資料6：図：「少子化の原因及びその背景のフローチャート」<sup>6</sup></p> <p>資料7：新聞記事「少子化対策は婚活から」</p> <p>○この学習で学んだことについて「個人」と「社会」を用いて，どのように説明できるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・憲法精神，個人の尊重により，結婚は自分自身及び配偶者個人のために，幸福を追求する目的とするものだ。戦前までの「家」を存続させる目的から，親のため，一族のため，個人の意思に反して強制されるものではないことは明らかだ。望まなければ結婚しないことも個人の幸福である。</li> <li>・小淵優子少子化担当相の私的懇談会「ゼロから考える少子化対策プロジェクトチーム（PT）」は23日，少子化対策案を同担当相に提言した。少子化の背景に未婚化・晩婚化があるとして，従来の子育て支援策にとどまらず，「恋愛・結婚にまで視野を広げて政策的対応を図る」よう求めている。</li> <li>・もちろん，結婚にかかわらず子をもうけないことは「個人」の自由ではあるが，最も身近で小さな単位の「社会」，さらにはそれを支える大きな「社会」保障をはじめ，多くの「社会」制度が維持できなくなる。</li> <li>・結婚は本人たちの幸福が大前提であるが，本人たち「個人」の幸福だけの問題とはいえない，「社会」を維持していくための基盤であることも考えなければならない。</li> </ul>

## 第二段階「関わりの知」（知の社会化）

○2 時限目…制度としての結婚の存在理由，今日的意義について話し合う。

展 開	教師の主な発問・指示	予想される解答（習得・吟味・判断させたい知識）
導入	<p>○ 非婚化や晩婚化の現状はどうだろうか。</p> <p>資料8：グラフ「世代別未婚率の推移」<sup>8</sup></p> <p>資料9：グラフ「初婚年齢の国際比較」<sup>9</sup></p> <p>資料10：グラフ「日本人の平均初婚年齢の推移」<sup>10</sup></p> <p>○ 以下の論題について話し合おう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確かに，20歳代後半から30歳代の非婚化や晩婚化が進んでいる。特に，男性の30歳代が著しい。</li> <li>・初婚年齢もスウェーデンについて世界で2 番目に高い。</li> </ul>
	<p style="text-align: center;"><b>【1 次的な問い】（めあて） 結婚ってダメな，イケてない，時代遅れの制度か？</b></p> <p>○ なぜ，非婚化や晩婚化が進んでいるのだろうか。</p> <p>資料11：図「家族崩壊の連鎖」<sup>11</sup></p> <p>○この「結婚したくない人が増えた」説はどうか？</p> <p>資料12：グラフ「未婚者の結婚願望（年齢別）」<sup>12</sup></p> <p>資料13：グラフ「一人暮らし女性の結婚願望」<sup>13</sup></p> <p>資料14：グラフ「24～25歳で結婚したい→15.3 %」<sup>14</sup></p> <p>○次に「わがままな若者が増えた」説はどうか？</p> <p>資料15：バブル期「三高」<sup>15</sup> 志向</p> <p>資料16：バブル崩壊後「三低」<sup>16</sup> 志向</p> <p>資料17：図「経済成長と結婚難」<sup>17</sup></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的には「女性が社会進出を始めて結婚せずに仕事を続けた人が増えたから」といわれている<sup>22</sup>。</li> <li>・他に「男余り」説，「時代に遅れた男性」説などの原因について，間違えが指摘されている<sup>23</sup>。</li> <li>・「一生結婚するつもりはない」人は，30代前半の女子で10年間のうち大幅に減っているし，東京都の調査でも結婚希望は20代女性で98%，30代でも90%を越えている。今年の調査でも，都内20～30代の男女が「結婚したくない」と答えた未婚男性は15.7%，未婚女性は12.0%だ。よって，この説が原因とはいえない。</li> <li>・より女性の社会進出が進む欧米で結婚がそれほど減っていないので，疑わしい。また，バブル期の「三高」（高身長，高学歴，高収入）について，バブルがはじけ「三高」とは言わなくなった現在，新たに「三低」（低姿勢，低リスク，低依存）が言われるが，ハードルが下がっても，結婚が増えたデータはない。</li> </ul>



<div>第二段階</div> <div>関わりの知</div>	<div>展開</div>	<p>○では、「男女交際がヘタになった」説はどうか？</p> <p>○男女交際の活発化が結婚難を引き起こすとはどういうことだろう？</p> <p>資料18：バブル?崩壊期「トレンディードラマ」<sup>18</sup></p> <p>資料19：図「男女交際の増大がもたらすもの」<sup>19</sup></p> <p>○我が国の「結婚」はダメな、時代遅れの制度か？</p>	<p>この説が原因とはいえない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ただし、経済の低成長を直接の原因とする「女子上昇婚」の機会の減少が原因の一つとして指摘されている。つまり、今日の20～30代男子の多くは、女子の父親の（高度経済成長期）経済力を（将来的にも）越えることができず、生活水準を下げたくない意識から女子が結婚をためらう<sup>24</sup>。</li> <li>一昔前より職場や大学への女性進出は進んでおり、レジャーやボランティア活動、遊興施設の発達、結婚紹介業者なども盛況で、独身男女が出会う機会は格段に増えている。中学、高校生時から恋人をもつ者も多く、携帯など情報も豊富なので、男女交際のテクニックも昔に比べればうまくなっている。ヘタになったのではなく男女交際の機会が増え、うまくなった、つまり男女交際の活発化こそが結婚難の原因として指摘されている<sup>25</sup>。</li> <li>「恋愛と結婚の分離」…恋愛が自由化され、男女交際が増加しても、恋愛と結婚が分離しているがために、結婚が増えない。</li> <li>「もてる人ともてない人の階層分化」…異性から好かれる魅力をたくさん持つ人と少ししかもたない人が存在する。交際範囲が狭く出会う機会も少なかった高度経済成長期には魅力の差が目立たなかったが、交際範囲が増えて、異性に対する目が肥えれば肥えるほど、好きな人と恋人関係になる確率は減っていく。</li> <li>「もっといい人がいるかもしれない期待」…恋人としてつきあう分にはいいが、いざ結婚となると、「もっと…」と思って結婚を先延ばしにする<sup>26</sup>。</li> <li>「結婚したくてもできない人が、一定の割合で生じることは、現在のシステムを前提とする限り、不可避である<sup>27</sup>」ことが指摘されている。</li> </ul>
	／	<div>【2 次的な問い】（転換／議論） 結婚しないもあり？</div>	
		<p>二次問(1) 結婚しないもありか？</p> <p>二次問(2) 少子化の根本的な原因は結婚難ではないのか？</p> <p>二次問(3) （最小単位の社会として）家族はどうなる？ 必要ない？</p> <p>資料20：表「日本で法律婚・事実婚・同性カップルが法的・社会的に認められる事項」<sup>20</sup></p> <p>資料21：グラフ「独身男女の子ども願望」<sup>21</sup></p>	<p>けん：現行の憲法や民法では「個人の幸福」が何よりも大切にされなければならないはずだ。だったら、当然、「結婚しない」選択もあります。婚姻は自由なのだからしたくない人はしなければよい。</p> <p>ゆり：もちろん、「個人」が大切にされるべきだけど、前時の学習のように、結婚は「個人の幸福」だけで考えても足りないのでは。</p> <p>けん：たしかに、社会保険・公的扶助・社会福祉・公衆衛生及び医療・老人保健など、社会保障の担い手がいなければ世の中がまわらなくなってしまう。そのためにも次の世代、つまり子どもがいなくなれば「社会」が維持できなくなる。</p> <p>ゆり：我が国では、同棲やそれに伴う婚外子の割合が少なく、法律婚による嫡出子が前提となっているため、少子化の主な原因として、昨今の未婚化・晩婚化が指摘されている。</p> <p>けん：欧米では結婚によらないカップルの子ども（婚外子）が多くなってきている。フランスなどでは子どもの約半数は婚外子だ。でも、日本では、相続など法的制度も十分整備されていないし、何より、「できちゃった婚」でもわかるようにどちらが先にせよ、「結婚」と「子ども」は切り離しがたい文化的な慣習だ。</p> <p>ゆり：日本の独身20～39歳の調査で、男84.0％、女85.2％が「子どもがほしい」と答えている。子どもがほしいのに結婚できないことが問題だ。</p> <p>けん：過去にさかのぼって、日本では、相互扶助、特に子どもを生み育てるため大切な社会機能を担ってきたのが家族である。今日、さらに将来にわたって、家族で生み育てる子どもが理想の社会モデルであり続けることには変わらないの</p>

		<p>ではないか。しかし、理想ばかりで結婚難の現実から目を背けるだけではいけない…難しい問題だ。</p> <p>ゆり：どうしたらよいだろう。よい解決策はないか。</p>
	○次時はフランスの制度を参考に考えてみよう。	

### 第三段階「拘わりの知」（知の価値化）

○3 時限目…「パックス法に倣う？」の議論を通して、将来の「結婚／家族」の在り方を話し合う。

展 開		教師の主な発問・指示	予想される解答（習得・吟味・判断させたい知識）
導 入  ／		<b>【1 次的な問い】（めあて） 最小身近な社会、これからの結婚・家族はどうあるべきだろう？</b>	
		<p>○最も身近で小さな「社会（共同体）」は何だろう？</p> <p>○現行制度では、「家族」をつくる方法は何だったか？ どのような形態をとる「社会」か？</p> <p>○欧米先進諸国と比較し、日本では子どもの生まれ方にどのような特徴があるか？</p> <p><b>資料22</b>：グラフ「婚外子出生率の推移」<sup>28</sup></p> <p>○これまで学習してきたように、「結婚」・「家族」制度は、「個人」の幸福だけの問題とはいえず、「社会」を維持していくための基盤であることも考えなければならない。これからの「結婚」・「家族」制度はどうあるべきだろうか、話し合おう。</p> <p><b>資料23</b>：新聞『「おひとりさま」か『婚活』か』<sup>29</sup></p>	<p>・やはり、「家族」だろう。中学校卒業後、誰もが直面し、どうすべきかかわらざるを得ない「社会」といえる。</p> <p>・今日の日本では、基本的、現実的には「結婚」、つまり異性一人ずつのペアが届け出をする届け出婚／法律婚主義としての「婚姻」である。これにより、夫婦とその子どもの形をとる。</p> <p>・欧米では「婚外子」の割合が高く、50%近くがそうである。1970年頃を境に各国とも「婚外子」が増え、現在もその傾向は続いている。比べて、日本では1960年代から大きな変化無く1%台で推移し、2004年で2%、欧米諸国と比べ、極端に「婚外子」は少ない、言い換えれば、「結婚」による子どもが圧倒的である。</p> <p>・進行する少子化によって、社会保障制度など「社会」を維持できるか問題となっている。今日、日本の少子化の大きな原因に結婚難が指摘されていることがわかった。「社会」を維持・継続させるために「結婚」・「家族」制度を見直す必要があるのかもしれない。</p> <p>・これまでに学習してきた事実を踏まえ、我が国の将来を予測しつつ、既に取り組んでいる外国の政策を吟味しながら、話し合うことが大切だ。</p>
		<b>【2 次的な問い】（転換／議論） パックスを導入する？ 婚活する？</b>	
		<p>○パックスとは何か？</p> <p><b>資料24</b>：表「パックス・同棲・結婚の比較」<sup>30</sup></p> <p>○誰がパックスを結べるのか／結べないのか？</p> <p><b>資料24</b>：表「パックス・同棲・結婚の比較」</p> <p>○どのような手続きが必要か？</p> <p><b>資料24</b>：表「パックス・同棲・結婚の比較」</p> <p>○具体的にはどのような制度か？</p> <p><b>資料24</b>：表「パックス・同棲・結婚の比較」</p>	<p>・1999年にカップルの新しい法的地位について、フランスで法制化された仕組み（Pacte civil de solidarité. PaCS：連帯民事契約または連帯市民協約）であり、同棲が公式な地位を授けられた。いわば、法律婚と事実婚の中間にあたる新しい「家族（社会）」を法制化したものである。</p> <p>・異性の二人組だけでなく、同性の二人組でも法的能力のある人で共同生活を送る計画があれば、この契約を結ぶことができる。</p> <p>・しかし、すでに結婚している人や一定の親族関係がある人との間の契約、また、一人の人が二つ以上のパックス契約を同時にすることは禁止されている。</p> <p>・届け出は市役所ではなく、裁判所で登録する。解消は二人の合意によるほか、一方的に解消することもできる。どちらか一人が結婚あるいは死亡した場合は自動的に終了する。</p> <p>・財産制、税控除、社会保障などについて、結婚に準じる権利を付与するものである。パックスは婚姻外の共同生活の枠組みを定めるための契約なので、法律に反しない範囲で、パートナーは共同生活の仕方やお互いの義務、財産の取り扱いについて、自分たちで決めて契約の中に盛り込むことができる。</p> <p>・例えば、パートナーのうち一人だけが賃貸の名義人であった場合に、名義人が死亡しても、残されたパートナーは引き続き住むことができるし、自分が医療保険に加入していなくても、自分のパートナーが加入していれば治療費や薬代、出産費用の払い戻しを受けることができる。</p>

○義務はないのか？

【資料24】：表「パックス・同棲・結婚の比較」

○短所や懸念されていることはないのか？

【資料25】：VTR「独身者急増！どうする“未婚社会”」<sup>31</sup>

○フランスではどの程度広がっているのか？

【資料25】：VTR「独身者急増！どうする“未婚社会”」

- ・契約を結んだパートナーは①扶養義務と、②日常生活の出費、についての債務を連託する義務を負わなければならない。この二つの義務は絶対であるが、貞操義務はない。
- ・以下の2つから反対する人（フランス人）もいる。
  - ①簡単に離婚することができる。
  - ②（そのことから）子どもに悪い影響がでるのではないか。
- ・2008年には、カップルの1／3はパックスである、フランスはこれによる新しい「家族」制度を選択したのである。

○ 結婚難の現状をふまえ、将来の社会の在り方、日本へのパックス導入のVTRを見た後、議論を継続・参加してみよう！

質問：あなたは、どのような社会が望ましいと思いますか？ ①結婚をめざす社会、② 結婚にとらわれない社会

…ほぼ同数

63歳自営業既婚男性：400万円ってあったけど、私が結婚した時は0だった。農家ですから。親から少しずつ小遣いもらって、2人で相談して、勤めに出たり、今自営業をやっている。だから、2人で相談してやっていけば、収入を増やすこともできるしやっていける。①

42歳公務員独身男性：単純に私も結婚したい。一つの家族があった方が、頑張りが利く。パックスだと、いつでも簡単にリセットでき、かえって、社会全体の不安を増すのではないか。①

42歳公務員独身男性：既存の結婚制度に押し込めていくだけで、ちょっと不安はあるが、まあ結婚してしまうと、その人が最終的に不幸になってしまう。既存の結婚制度は私は大事だが、全ての人に結婚の圧力をかけることは避けた方がいい。②

35歳自営業独身男性：結婚して長いことうまくいく人もいるが、もし、うまくいかない場合、パックスの方が、分かれて次の人生を送ることができる。①への疑問は「結婚をしているから（パートナー関係が）長続きしている」という発想があるのではないか。わたしはそういう発想がないので、結婚にとらわれない社会の方が自由でよい。②

78歳既婚 NPO 結婚相談男性：皆さん生まれてきてですね、この世に生まれたのは誰のおかげかだと思っているのか、よく考えてもらいたい。ご先祖のおかげ。①

22歳会社員独身男性：シンプルに、自分の親がパックスだったら、悲しい。要するに、なぜ簡単に別れるパックスだったのかなっていうのを考えると、親はパックスではなくて結婚の方がいいとシンプルに思う。①

48歳 web デザイナー独身女性：で（22歳男性に）反対に、親はパックスをとったけれどまだ別れてない、それだけ愛情が深って考えられるのではないか？②

51歳公務員既婚男性：結婚っていうのは入籍だけじゃない。今、多様な生き方がある。それに伴った生き方をすればいい。そういう社会保障制度があれば問題は解決できる。②

35歳独身女性：結婚にとらわれない社会でいいというのは、とりあえず、愛する人の子どもをつくるとか、愛する人という形は、決して結婚でなくても可能。制度を変えてしまえば、ある程度解決する。②

岡田斗司夫氏（大阪芸術大学客員教授）：基本、社会の自由度を上げれば上げるほど、安定性が下がる。つまり、パックスみたいな制度を導入して新しい結婚の形、もしくは結婚以外のカップル、もしくは結婚以外の育児っていうのを認めれば認めるほど、個人は生きやすくなるんだけど、社会の安定性はどんどん下がっていく。市民の1人としては①。でも、今の結婚制度は限界。無理矢理、かつての制度に生き方を合わせているから結婚したいけどできない。だから②にせざるを得ない。

40歳会社経営既婚男性：結婚の制度、全然、疲弊していない。人類がここまで達するまでに、一夫多妻制など様々あったが、最終的にたどり着いたのが結婚だ。あと、結婚って制度としては簡単だ。両性が合意してハンコを押せばいいだけ。ただ離婚が片方だけではできない。けんかをして結婚ならとことん話し合うが、パックスならすぐ“さよなら”だろう。①

遙洋子氏（タレント・作家）：今の結婚制度の変容だって次に新しい制度に生まれ変わる過渡期かもしれない。社会通念に脅迫されて選ぶのではなく、それこそ“愛”で相手を選ぼうと思ったら、そういう社会通念、経済力、あらゆる手枷足枷から自由にする。そのためには、基本1人で生きられる社会づくりが必要。ピュアな感覚でパートナーを選べる時代が次なる結婚だ。②

橋爪大三郎氏（東京工業大学教授）：結婚は、やりたい人が自分の幸せのためにやること。幸せになるならば結婚すればいいし、結婚しない方が幸せならばしなくていい。でも、結婚っていう制度を上回るうまい考え方は未だ発明されていない。結婚はほとんど全ての人に「家族」を提供してくれる制度なのだ。家族がいればやはり元気になるし、実は寿命も延びる。多くの人を幸せにできるいい制度だ。だから、1人1人が自由にいければ（生ければ）いいが、社会全体として結婚をないがしろにしてはいけない。

まとめ	<p>※ 自分の考えを可視化する道具として「座標軸」、「ベン図」、「概念地図」のいずれかを使い、互いの主張の妥協・調整をはかろう。</p> <p>[付加資料]</p> <p>資料26 : 「アメリカ家族の実像<sup>33</sup>」  資料27 : 「親の代理見合い<sup>34</sup>」  資料28 : 資料「コアビタシオン<sup>35</sup>」  資料29 : 資料「LATカップル<sup>36</sup>」</p> <p>※ 集団での事例面接…4～6名によるグループ</p> <p>○VTR中、識者コメンテーターである橋爪大三郎氏による「1人1人が自由にいければ（生ければ）いいが、社会全体として結婚をないがしろにしてはいけない」というまとめから、将来の社会、特に結婚・家族を規定する制度の在り方を議論する際、どのような問いや論点にこだわっていこうと考えますか。</p>	<p>・アメリカは日本より結婚率が（離婚率も）高い。日本では離婚が難しい。  ・あまりの結婚難に、ついに本人に代わって親が見合い。  ・フランスで、結婚制度に反対する意味を持たない、客観的状态の同棲。  ・結婚せず、共同生活もしないカップルもいる。社会学者がいうLiving Apart Together。</p> <p>[予想されるコミットメント例]</p> <p>・結婚が増えれば子どもの数も増えるのか？  ・結婚する人、親の立場からだけで結婚をとらえてよいのか？  ・「結婚・家族」は誰のために、何のために必要または不要か？  ・最小身近な社会として「家族・結婚」を他の仕組みに置き換えることは可能か？  ・最小身近な社会として「家族」がなくても社会全体は大丈夫なのか？  ・結婚しなくてよい世の中になった時、社会は機能するか？持続可能か？  ・「家族」を否定し「個人」を選んだ時、自分をフォローしてくれる老後や将来のプレイヤーを育てることに無関心でよいのか？フリーライダー（社会へのタダ乗り）ではないか？  ・同性婚により相互扶助することで解決するか？ etc.</p>

### [学習指導案に関する注]

- <sup>1</sup> 山田昌弘・白河桃子『「婚活」時代』(株) ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2008年。  
「婚活」とは山田・白河両氏により提案される「よりよい結婚を目指して、合コンや見合い、自分磨きなど、積極的に行動する結婚活動」を略した造語である（初出は『AERA』2007年11月5日号）。
- <sup>2</sup> 山田昌弘・白河桃子『うまくいく！ 男の「婚活」戦略』PHP研究所, 2009年, pp. 10-11。
- <sup>3</sup> 前掲書1, p. 45。
- <sup>4</sup> 『小六法』有斐閣, 2006年など。
- <sup>5</sup> 『広辞苑第六版』岩波書店, 2008年。
- <sup>6</sup> 増田雅暢『これでいいのか少子化対策 政策過程からみる今後の課題』ミネルヴァ書房, 2008年, pp. 12-22 原典：内閣府『平成16年版少子化社会白書』ぎょうせい, 2004年, p. 16。
- <sup>7</sup> 「少子化対策は婚活から 小渕担当相にPT提言」, 毎日新聞, 2009年6月24日（朝刊）。
- <sup>8</sup> 週刊『ダイヤモンド』（2007/4/14通巻4175号）「驚愕の少子社会 年金, 地域社会, 家族, 働き方, 経済産業…近未来大予測」(株)ダイヤモンド社, 2007年, p. 49。
- <sup>9</sup> 山田昌弘『結婚の社会学 未婚化・晩婚化はつづくのか』丸善ライブラリー, 1996年, p. 17。
- <sup>10</sup> 河野綱果『人口学への招待 少子・高齢化はどこまで解明されたか』中央公論社, 2007年, p. 167 原典：国立社会保障・人口問題研究所（2007年）『人口統計資料2007』。
- <sup>11</sup> 週刊『東洋経済』（2008/10/25第6170号）「家族崩壊 考え直しませんか？ニッポンの働き方」東洋経済新報社, 2008年, pp. 40-41。
- <sup>12</sup> 前掲書9, p. 26 原典：人口問題研究所1994「独身青年層の結婚観と子供観」。
- <sup>13</sup> 前掲書9, p. 27 原典：東京都生活文化局1995「シングル女性の生活と意識に関する調査」。
- <sup>14</sup> 「24～25歳で結婚したい→15.3%」, 毎日新聞, 2009年7月3日（朝刊）。
- <sup>15</sup> 「厚生白書」1998年版。



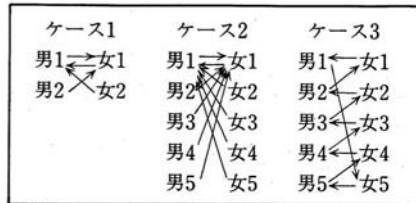
<sup>16</sup> 大竹文雄『経済的思考のセンス お金がない人を助けるには』中央公論社、2005年、pp. 5-13 原典：月刊「Can Cam」小学館、2004年1月号、特集「彼女選びの条件が、15年前とガラリと変わった…とのウワサを徹底検証！ 三低クンvs.三高クン」。

<sup>17</sup> 前掲書9、1996年、p. 85。

<sup>18</sup> 典型例として、『ふぞろいの林檎たち』（TBS）1983年、『男女7人夏物語』（TBS）1986年、『同・級・生』（フジ）1989年、『東京ラブストーリー』（フジ）1991年など、バブルから崩壊期以降のテレビドラマには、現実に生起している恋愛の反映、つまり結婚に結びつかない恋愛パターンが顕著に反映されている。

<sup>19</sup> 前掲書9、1996年、p. 133。

〔図表 5－8〕男女交際の増大がもたらすもの



<sup>20</sup> 杉浦郁子・野宮亜紀・大江千束・編著『パートナーシップ・生活と制度 [結婚, 事実婚, 同性婚]』緑風出版、2007年、p. 55。

<sup>21</sup> 泉 直樹『オトコの婚活』実業之日本社、2009年、p. 139。

<sup>22</sup> 大橋照枝『未婚の社会学』NHKブックス [666] 日本放送出版協会、1993年、pp. 14-28 など。

<sup>23</sup> 前掲書9、1996年、pp. 12-40。

<sup>24</sup> 前掲書9、1996年、pp. 65-97。

<sup>25</sup> 前掲書9、1996年、pp. 29-31。

<sup>26</sup> 前掲書9、1996年、pp. 139-156。

<sup>27</sup> 前掲書9、1996年、pp. 158-160。

<sup>28</sup> 神原文子・杉井潤子・竹田美知 編著『よくわかる現代家族』ミネルヴァ書房、2009年、p. 188 原典：井上輝子・江原由美子編『女性のデータブック 第4版』有斐閣、2005年、p. 9。

<sup>29</sup> 特集ワイド：言いたい、上野千鶴子 vs. 白河桃子、「『おひとりさま』か『婚活』か」、毎日新聞、2009年6月24日（朝刊）。

<sup>30</sup> ロランス・ド・ベルサン著／齋藤笑美子訳『ボックスー新しいパートナーシップの形ー』緑風出版、2004年、p. 25。

<sup>31</sup> 『日本の、これから』『独身者急増！どうする“未婚社会”』（NHK、2009年5月7日19：30－20：45放送）。

<sup>32</sup> 杉浦郁子・野宮亜紀・大江千束・編著『パートナーシップ・生活と制度 [結婚, 事実婚, 同性婚]』緑風出版、2007年、pp. 105-108。

<sup>33</sup> 週刊『東洋経済』（2008/10/25第6170号）「家族崩壊 考え直しませんか？ニッポンの働き方」東洋経済新報社、2008年、pp. 88-89。

<sup>34</sup> 週刊『エコノミスト』（2008/2/4通巻3950号）「進化する結婚ビジネス」毎日新聞社、2008年、p. 81。

<sup>35</sup> 浅野素女『フランス家庭事情 ー男と女と子どもの風景ー』岩波書店、1995年、pp. 5-11。

<sup>36</sup> 前掲書35、pp. 29-36。

#### 〔参考文献〕

##### 〈家族制度／人口関連〉

関口裕子・服藤早苗・長島淳子・早川紀代・浅野富美枝『家族と結婚の歴史』森話社、1998年。

内藤考至『農村の結婚と結婚難』九州大学出版会、2004年。

山田昌弘『家族のリストラクチャリング』新曜社、1999年。

山田昌弘『少子化社会日本 ーもうひとつの格差のゆくえ』岩波書店、2007年。

松谷明彦・藤正巖『人口減少社会の設計 幸福な未来への経済学』中央公論社、2002年。

##### 〈結婚関連〉

佐藤留美『結婚難民』小学館、2008年。

酒井順子『負け犬の遠吠え』講談社、2003年。

小倉千加子『結婚の条件』朝日新聞社，2007年。

山田由美子『必勝婚活メソッド ―「お見合い」という婚活（カツ）』学習研究社，2009年。

杉浦里多『電撃結婚ノススメ 結婚マーケティングで8ヶ月以内に開運婚を掴む方法』(株) マガジンハウス，2008年。

梅森浩一『結婚する技術』(株) ディスカヴァー・トゥエンティワン，2005年。

〈フランス 家族制度／結婚関連〉

ピエール・ブルデュエ著，丸山茂・小島宏・須田文明訳『結婚戦略 家族と階級の再生産』藤原書店，2007年。

ミュリエル・ジョリヴェ著，鳥取絹子訳『フランス新・男と女 幸福探し，これからのかたち』平凡社，2001年。

赤杉康伸・土屋ゆき・筒井真樹子編著『同性パートナー 同性婚・D P法を知るために』社会批判社，2004年。

〈フェミニズム，ジェンダー関連〉

上野千鶴子・小倉千加子著『ザ・フェミニズム』筑摩書房，2005年。

上野千鶴子・宮台真司・斎藤環・小谷真理他『バックラッシュ！ なぜジェンダーフリーは叩かれたのか？』双風舎，2006年。

橋本俊詔『女女格差』東洋経済新報社，2008年。

特集「ジェンダーフリーって何？」『世界』2005年4月号，No.738，岩波書店。

表4. 集団事例面接における対話セッション事例

ターン	発話者	発話内容
1	T	じゃあですねえ，これからの結婚，家族はどうあるべきかということで，みなさんの考えを聞かせて下さい。それから，みなさんの考え，違うところもあると思いますので，話し合いを進めて下さい。それでは，最初の人お願いします。
2	A男	えーっと，僕はボックスを導入した方が良いのではないかと考えます。なぜなら，フランスではその制度を導入したら，少子化から（合計特殊出生率が）2人に戻った（仏1994年：1.65人→2006年：2.00人），かなり近くなったといわれている。それを日本でも（導入）したら少子化（日2005年：1.26人）とかいわれなくなるのではないかと思います。だからボックスを導入した方が良い。
3	T	うん，少子化に役立つと。はい，じゃあ（次）お願いします。
4	B男	ボックスは子どもが悲しむので，あまりよいとはいえないと思う。だから，導入すべきではない。
5	T	誰のためといえば，親のためだけになっていると…？ そういうことかな？
6	B男	はい。
7	T	じゃあ，次，いいかな。
8	C女	確かに，今のB男君の意見と同じように，ボックスだったら親は気が楽だけど，やはり子どもは親が，何ていうか，結婚していないから肩身が狭いと思うんですけど，でも，今現在，結婚率が低下している（未婚率：男・25－29歳70％超，30－34歳47％，女・25－29歳60％，30－34歳32％，2005年国勢調査）から何らかの策が必要だと思います。
9	T	うん，しょうがないと，そのような方法をとらないとねえ…？ （次）はいどうぞ。
10	D女	えーっと，ボックスを導入することについては反対です。国としては出生率を上げるためとか，子どもの数を増やすため，ということは，高齢者（2009年65歳超22.8％：国連は超高齢社会を21％超とする）を支える負担者としての負担（若3～4人で老1人）が減るということは，わかるんですけど，それに対して，生まれてくる子ども，生まれてくるという意味の質というものが，なんかこう，軽い感じにとられるので，何らかの対策は必要だと思うんですけど，ボックスとしての導入はどうかと思います。
11	T	そのお…，生まれてくる意味というかねえ，へえー，深いこというねえ…。はい，じゃあ今，意見が出たんだけど，それについて，どうぞ，意見交換して下さい。違う意見もあったよね？ どうぞ。いろいろ，聞いてみて。フランクに言っていーから，どうぞ，どうぞ。
12	A B C D	（笑い）

13	C 女	でも、やっぱり、パックスだったら、まあ、パックスも結婚もなんですけど、（当人という意味での）親が決めることじゃないですかぁ？ で、子どもはただ生まれてくるっていうか、まあ、親がどうしようと子どもはどうすることも出来ないわけだから…、やっぱり、（親と子どもで）立場が違うから、（親と子どもで）意見も違うから…、そういうところは（子どもも）主張は出来るというか…、親の権利とかだけじゃなくて、生まれてくる子どものこともちゃんと考えた制度じゃないと…、いけないと思うんですよ。
14	T	うん、あまりに親の個人の権利というかなあ、そういうのに偏りすぎていると？そういうことかな？
15	C 女	確かに、少子化にストップはかかると思うですよ。フランスみたいにそれでもやっぱり、個人の権利とかそういう面でいったら、賛成するのはちょっとどうなのかなあ…とは思います。
16	T	うん、はいどうですか？パックス導入した方が良いついていう人がいたよねえ。…どうだろう？（導入派のA男に）どうだろう、納得しちゃう？
17	C 女, D 女	でも、でもなんですけど…
18	C 女	何もしなかったら、今現在、少子高齢化が進んでいる（日2005年：1.26人）わけなんだから、
19	T	そうなんですよぉ…。
20	C 女	だからぁ、とりあえず…。
21	T	（授業で紹介した社会学者の談話：今の20歳前後の若者は将来的に）4人に1人、結婚しないって。
22	D 女	えっと、何か、今現在、やっぱり結婚っていうのは江戸時代にくらべて、政略結婚であっても、親がお見合いとして、出会いというものが絶対にあったはずなんですけど、現在になって自由になった分だけ、その出会いが無くなるということもあって、自分から婚活とか行動を強いられることになってて、でも、そこで出会ったからには、お互いに愛し合うじゃないけど、やっぱそのお、息が合うというか、一緒に生活していくうえでの、楽しみじゃないですけど、そのようなものが生まれるのに対して、今の日本は結婚に対しての意識の低下（資料の図：良い相手にめぐり会わない、独身生活に利点、資金不足、女性就業率高、結婚・出産機会費用増大など）が起こっていて、高齢化が進んでいる中で、少子化が叫ばれていて、これからの子どもが生まれないと、高齢者を支える税金とかの負担者の一人一人の負担が増大していく中で、日本社会として国力の低下（2009年1－3月期：470兆円→1991年469兆円に迫る低レベル）と国民の負担が増大して、またさらに少子化が深刻化していくと、悪循環になるので、もっと自分の結婚に対する考え方と、これからの次世代の日本という面での結婚の仕方というのを、考え直さなければならない。
23	T	少子化担当プロジェクトチーム座長の発言みたいだね。
24	A B C D	（笑い）
25	T	どうですか？今、広い立場から意見をいただいたんですが…どうでしょう？
26	A 男	まいりました。
27	T	いや、まいりましたじゃなくって。けど、結婚ってとっても個人の感情とか、愛情とか、そういうものっていうのはものすごく大きい要素だよなぁ？そういう立場からはないですか？
28	C 女	結婚はよいことだと思うんですよ。よいことだと思うんですけど、今現在、（結婚）率が減っているわけだから、その率を増やせば、結局のところ、親の権利っていうか、気持ちの面とか、子どもの面とか、少子化(現象)の面とかでも、やっぱり調和があると思うんですけど…、つまり、結婚する率を上げたらいい、ということですよなぁ？
29	D 女	フランス側としては、（パックスは）国の出生率を上げるための手段としてで、人間としての生き方というところが無くて、国のためというところがあるので、そこに感心できない。

30	T	ああっ、いただけないってことですか…。こういう見方はどうだろう、例えばね、じゃあ、今日本の結婚ってというのはそれほどちゃんと（真剣に）考えてやっているのか？（できちゃった婚など）実質、日本の結婚って“パックス化”してないか？っていうことはどうですか？
31	A B C D	（沈黙）
32	T	いや、もちろん、すぐに税制がどうだってことじゃないよ。例えばさあ、離婚率とかがどんどん高まってきていて、アメリカに近づいてきている（資料：1000人あたり米11組、日10組、2004年）とかいうのがありますよねえ。じゃあ、要は、（日本では）離婚がしやすいように法律を変えたらいいじゃないか？ということもあるんだけど、それはどうですか？
33	D 女	ただ、離婚をしてはいけないとかいう法律も特に無くて、何回でもパートナーを替えるということは自由かもしれないんですけど、やっぱり、自分の両親から教わったことだってあるし、一人一人に対する、うわべだけを見て人を判断するというのが最近目立つので、何か、もっと、1回しかないって思うというか、結婚に対する思いという考え方に、だんだん教育がなされていないので、両親からもそうですし、もうちょっと、結婚に対する考え方を改め直す機会がほしいなと思います。
34	T	じゃあ、最後。“おひとおりさま”についてはどうですか？「もう結婚しない」という策はどうだろう？
35	C 女	ああっ、非婚ですか？
36	T	うん、非婚。
37	C 女	それは、個人の自由だと思います。結局全部、人間っていったらおかしいんですけど、決めることじゃないですか？人が。だから、こう～、なんていうか～、う～ん…無理強い、強制とかだったら誰も従わないと思うし、もしも一人で（いることに）大きなメリットがあるとか、そういう人だったら、（結婚）しなくても良いと思うんですけど、でも、逆にそういう人だったら、何ていったらいいんだろう…？人生経験じゃないけど（D女に問いかけ笑い）
38	D 女	（C女を受けて）結婚するのも、しないのも自由なんですけど、生まれてきて自分の生きて行く道として、やっぱり個人の見方はそれぞれありますけど、自分が生まれてきている意味とか考えると、自分もこれからの（社会）のために何か出来ることの一つでもあるし、自分の代で終わらせるんじゃないくて、これからもどんどん後につなげていくことも大事なことだと思う。
39	T	う～ん…。どうですか？（A男、B男に）黙っちゃったけど。
40	A 男	非婚をつくらぬような政策を国がつくったらい。
41	T	うん、一人でいると税金高いぞ、とか？
42	A 男	そうしたら、少子化も起こらないし…
43	T	さっき（授業で）言ったバッド税にしちゃうんだ？
44	A 男	そういうものをつくっても悪くはないと思う。
45	T	はぁ～…。（非非婚政策は）悪くはないと？はい、どうですかねえ、これからの、家族、結婚について言い足りないこと、ありません？
46	D 女	国として、少子化について深刻に考えているのだったら、もっと、職場で働いていて、出会う機会が少ないとか、子供をつくることに抵抗があるんだったら、職場に保育施設を設けたりだとか、もっと相談できる施設の充実をはかったり…、もっと国として動けることが、（直接給付する）お金、金額の面だけでなく、もっと手段があるのではないかなと思う。
47	T	ああっ、そうですか。もういいですか？
48	A B C D	はい。